

SEED (シード)

Vol.011
2023.4月

駒澤大学では、2022（令和4）年度より、社会連携・地域貢献にかかわる様々な活動への支援を目的とした学内公募型の助成制度である「駒大生社会連携プロジェクト」を開始しました。この制度は、本学の定める「社会連携・社会貢献に関する基本方針」に基づいて、大学と社会が協働して、課題を発見・共有し、新たな価値を生み出す活動を促進することを目的としており、初年度であった昨年は、7団体が採択され、素晴らしい成果をあげました。

「SEED」は、「駒大生社会連携プロジェクト」に参加するメンバーから寄せられた記事等をもとに、各プロジェクトの「成長」を伝えるニュースレターです。社会連携のプロジェクトの種（SEED）を、学生・大学・そして社会の皆様とで大切に育み、大きな花を咲かせられるように、そして、それぞれのプロジェクトが、「問題解決能力」を備えた人材の育成の「種まき」となるようにという想いをこめて名付けられたものです。

今年度も、「駒大生社会連携プロジェクト」をはじめとして、社会連携に関する駒大生の活動を伝えていきます。

令和5年度「駒大生社会連携プロジェクト」※募集要領抜粋

1. 申請資格

本学専任教職員1名以上を代表とした本学学生のプロジェクトチーム

※ 応募資格を有する教職員向けに学内グループウェアにてご案内しております。

2. 募集テーマ

（テーマ1）世田谷区部門

・世田谷区内の団体・企業・他大学等と連携して行う社会参加活動を中心としたプロジェクト

（テーマ2）産官学連携部門

・世田谷区内を除く団体または企業等と連携して行う社会参加活動を中心としたプロジェクト

（テーマ3）SDGs部門

・SDGsの17のテーマに特化し、それを前面に打ち出す取り組みを行うプロジェクト

3. 選考方法

採択および支援金額は、①社会連携課による書類審査、②外部審査委員による申請書の審査、③駒澤大学社会連携委員会での審議を経て、④学長により決定されます。

4. 採択プロジェクトへの支援金 1団体への支援金の上限金額：450,000円

5. 申請期間：令和5年4月1日（土）～令和5年4月19日（水）

※「活動計画書（様式1-1）」・「収支予算書（様式1-2）」を、社会連携センターまでお送りください。

令和4年度「駒大生社会連携プロジェクト」参加者の声

令和4年度「駒大生社会連携プロジェクト」に参加したメンバーから、以下のような声が届いています。

(2023年3月上旬に実施した「令和4年度「駒大生社会連携プロジェクト」採択プロジェクトメンバーの学生の皆様へのアンケート」の調査結果より、一部を抜粋してご紹介します。)

1. 「駒大生社会連携プロジェクト」の「採択プロジェクト」として活動した感想を教えてください。

- 社会連携センターの方や外部審査員の方、他にもこのプロジェクトに関わる多くの方からご支援いただき、現場に根差したより発展的な研究プロジェクトを行うことができたと感じております。また、この駒大生社会連携プロジェクトを通して、普段関わることのできない他ゼミの学生と交流できる貴重な機会となりました。それと同時に、私が行ってきたものとは全く異なる視点からの切り口で行われたプロジェクト内容について知ること、新たな知見を得られ多くの学びとなりました。今回はこのような素晴らしいプロジェクトを発足していただき大変感謝しております。ありがとうございました。
- 初めての試みで大変でした。
- 様々な団体と協力することで、社会に強い影響力を与えられたことに感動しました。
- 今回のように、お金をいただき活動することは初めてでした。そのため、いただいたお金の中で最大限の効果が発揮されるように、先生や他の学生と話し合いながら進めて来ました。その結果、イベントを開催することが出来て、外部の方にも問題意識を共有することが出来ました。
- 社会連携プロジェクトを通じて、連携企業様とともに課題解決に取り組むことで、自分とは違う立場の相手とのコミュニケーションのとり方や研究室で学んだ理論を現実に落とし込むことの難しさなど普通の学生生活では中々学べないようなこと学ぶことができました。また、社会連携プロジェクトの中で学ばせていただいたことで、自らの研究をこえ、日常生活でも、物事に対して以前とは違う角度から見られるようになったり、問題意識を持てるようになったりと私自身、視野の広がりを感じています。
- 自分が活動してきた研究プロジェクトが如何にして研究室、連携企業、社会に還元できるのかについて考えながら活動できた点において学問としての学びはもちろん、これから社会に出ていく身として、人としての学びにも繋がったと感じています。

2. 「駒大生社会連携プロジェクト」の「採択プロジェクト」として活動して、学んだこと・得たものは何ですか？

- 実際に現場を訪れながら、理論を実践したプロジェクトを企業の方と連携して進めることで、学内だけでは知る・得ることのできなかつた、実際の経営における難しさ、現場の空気感、また外部の人との繋がりなど、多くの学びを得ることができました。このプロジェクトにおいて、学問的な部分での知識だけでなく、コミュニケーション力や実践力、考える力など様々な人間的成長も感じることができ、なによりも連携してくださった企業様や他ゼミの学生、社会連携プロジェクトに携わってくださった方々など、ネットワークが広がり多くの方との関係構築ができた点で、大きな財産になったと感じております。
- 粘り強くやり抜く力。主体性。協調性。
- 学んだことは、社会との接点を持つことの楽しさを知ったこと、日本における難民の実態。得たものはチーム活動のノウハウと自信。
- 外部の方とやり取りをする力を得ました。私は今まで、駒澤生以外の方と関わる機会が多くなかったため、今回のチラシ配布などで外部の方と関わる事が出来、自分の中の幅が広がりました。
- 研究室で学んだ理論や立てた仮説を現実に落とし込むことの難しさを学びました。また、そこに理想と現実のギャップを埋めようと連携企業とコミュニケーションをとりながら一緒に取り組ませていただく中で、今までになかった発想や視点を学ぶことができました。
- 連携企業とのコミュニケーションが大きく挙げられます。企業と学生といった異なる視点から共に課題を明確にして解決に取り組むという経験を通じて、交渉力が身についたと感じています。

3. 「駒大生社会連携プロジェクト」の「採択プロジェクト」として活動してきたことを踏まえて、あなたは今後、どのようなことをしたいですか？

- このプロジェクトを通して得られたことを、次は社会に貢献していくことができればと思っております。社会とのつながりから大きく成長できた部分を、今後最大限発揮し、本プロジェクトの採択プロジェクトとして活動してきたことを誇りに多くの人の力となり活躍できる人材になっていきたいと考えております。
- 如何なる分野においても人々への「発信」を臆することなく積極的に行っていきたい。
- 今回扱った分野に限らず、身近な社会活動に貢献したい。
- 引き続き、外部の方々との関係を保っていきたいです。
- 今回の産学連携を通して、自分の研究の範囲をこえた様々なことに対して「本当にこれでいいのか」「そもそもこの前提で合っているのか」「これからどうすべきか」といった疑問や問題意識を持つようになり、物事を深く考えるようになりました。これからも問題意識や疑問を持ち続け、自分自身や周りの環境を良い方向に変化させていけるような社会人になりたいです。
- 人と近くで接して課題解決に取り組む仕事をするので、この経験を活かして相手の立場を汲み取りながら適切な情報を交渉できるような社会人になりたいと思います。

4. 来年度も「駒大生社会連携プロジェクト」にエントリーしてみたいですか？

※ 1～3年生対象の設問です。

- 対象者全員が「してみたい」と回答
※ アンケートに回答して下さった学生のうち、4年生には「今年度4年生である」を選択していただきました。

5. その他

- ※ 活動報告会の開催方法、運営方法などについてご意見を頂戴しました。
今年度以降のプロジェクト運営に活かして参ります。

3号館（種月館）3階に、
2022年度採択7団体の活動報告パネルを掲示しています。



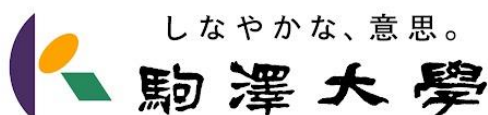
【予告】駒大生社会連携アイデアコンテスト 始動！！

令和5年度より、新たに「駒大生社会連携アイデアコンテスト」を開催します。

企業や組織から提示された社会的課題の解決に向けて、
学生個人または少人数のグループでアイデアを提案していただきます。
詳細が決まりましたら、「SEED」および大学ホームページ、KONECO等でお知らせします 📢



駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、
社会連携センターのホームページでご案内しております。 → [社会連携センター「お知らせ」](#)



発行：駒澤大学
学術研究推進部
社会連携センター
(2023.04月)